

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 45 号

第 45 週 (11 月 7 日 ~ 11 月 13 日)

発行年月日:平成17年(2005年) 11 月 18 日

発行 : 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

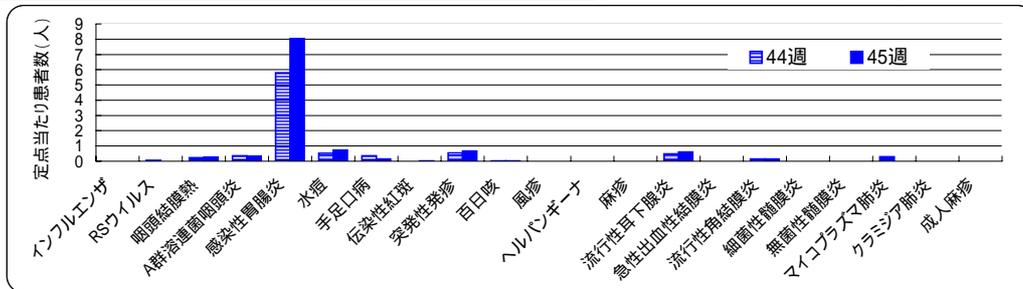
今週の感染症動向

感染性胃腸炎の発生は先週よりさらに増加

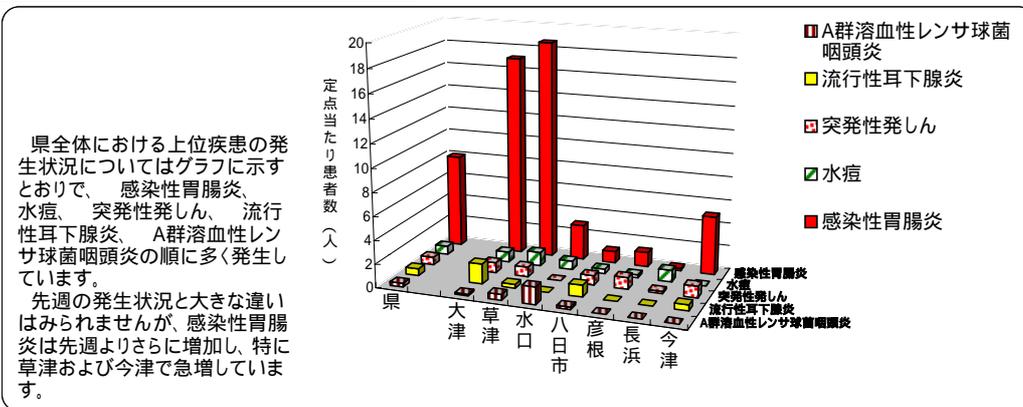
定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(10月31日～11月6日)の報告数よりさらに多くなり、今週増加を示した疾患は感染性胃腸炎、水痘等です。減少した疾患は手足口病、マイコプラズマ肺炎等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、今週は全数報告感染症の届出はありませんでした。

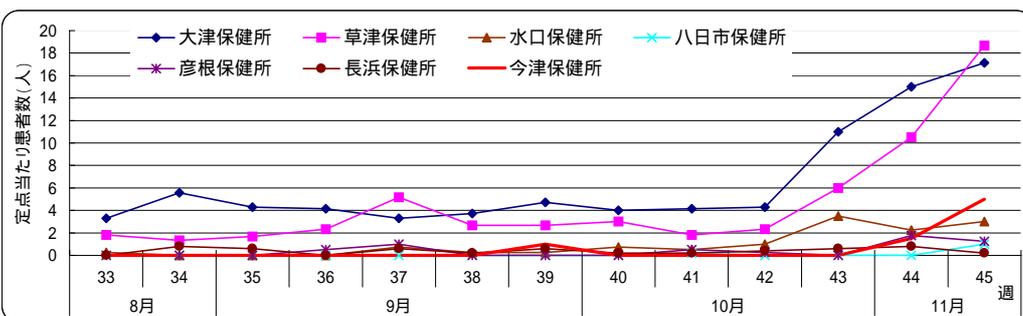
定点把握の対象となる5類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象5類感染症、第45週)



感染性胃腸炎の週別・保健所管内別発生状況(平成17年第33～45週, H17.8.15～11.13)



第33～45週の週別発生状況についてみると、第43週には大津および草津保健所管内で急増し、第44週からは今津保健所管内で増加傾向を示しています。また、水口保健所管内では43週にやや増加しており、他の保健所管内では現在のところ大きな変化はみられません。

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (45週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (45週)	全国 (45週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 7	504	9	576
	腸チフス	0	0	45	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	3,306	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 36	1	34
	A型肝炎	0	1	^{(*)3} 152	0	136
	オウム病	0	1	31	1	39
	デング熱	0	1	64	2	45
	マラリア	0	0	61	2	73
	レジオネラ症	0	3	235	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	0	5	607	8	580
	ウイルス性肝炎	0	2	252	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	132	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	50	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	7	1,002	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	65	2	85
	梅毒	0	0	459	4	516
	破傷風	0	0	95	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	59	0	49
	急性脳炎	0	2	^{(*)3} 160	1	164

* 1: 平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

* 3: 平成17年第43週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

全国における全数報告感染症の発生状況 - iDWR2005年第43週、10/24～10/30より

1類感染症：報告なし	4類感染症：日本脳炎 1例	5類感染症：ウイルス性肝炎(B型) 2例
2類感染症：コレラ 2例	マラリア 3例	クリプトスポリジウム症 1例
細菌性赤痢 5例	レジオネラ症 10例	ジアルジア症 1例
パラチフス 3例	A型肝炎 2例	後天性免疫不全症候群 13例
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 58例	レプトスピラ症 1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例
4類感染症：オウム病 1例	5類感染症：アメーバ赤痢 4例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2例
つつが虫病 3例	梅毒 3例	
日本紅斑熱 1例	破傷風 1例	
	急性脳炎 1例	

2) 定点把握の対象となる5類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。
* 疾患により定点数は異なります。

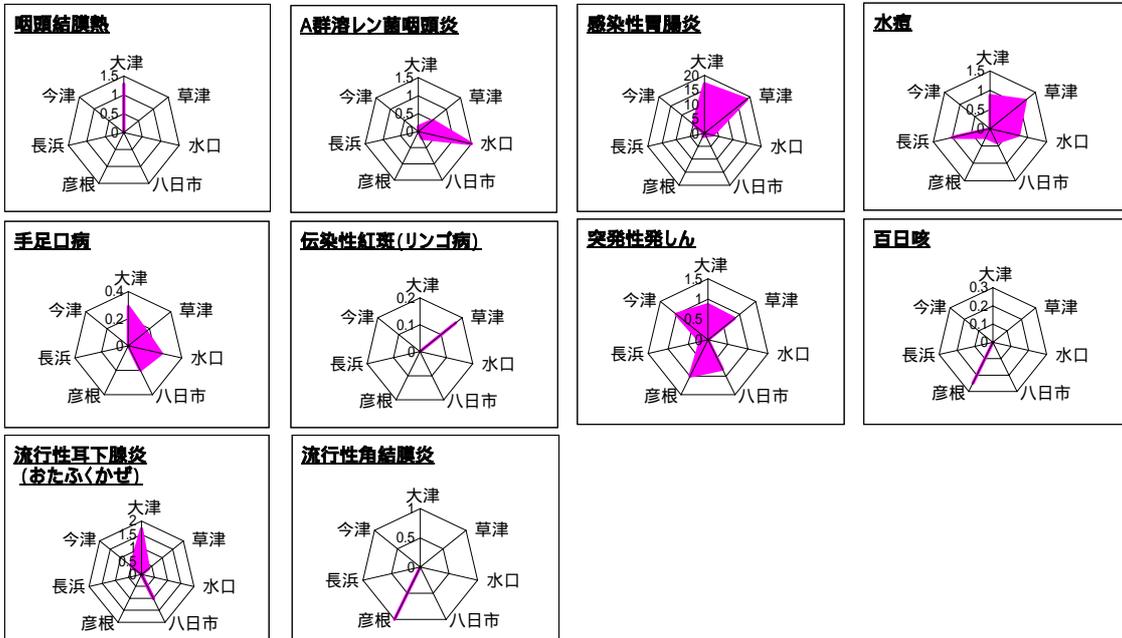
(1) 疾病別・週別発生状況(第40～45週、10/3～11/13)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	40週		41週		42週		43週		44週		45週	
	(10/3～)	10/10～	10/17～	10/24～	10/31～	(11/7～)	41	42	43	44	45	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0.06	0						
咽頭結膜熱	0.48	0.45	0.24	0.15	0.24	0.27						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.18	0.21	0.48	0.30	0.36	0.33						
感染性胃腸炎	1.52	1.39	1.55	3.94	5.79	8.03						
水痘	0.21	0.27	0.36	0.33	0.52	0.73						
手足口病	0.42	0.45	0.33	0.30	0.36	0.15						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0	0.03	0.03	0	0.03						
突発性発しん	0.61	0.48	0.45	0.64	0.55	0.67						
百日咳	0	0	0	0.03	0.03	0.03						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	0.12	0.12	0.15	0.15	0	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.73	0.55	0.67	0.73	0.48	0.61						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.14	0.29	0.14	0.14						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.14	0.14	0.29	0.29	0.29	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第45週、11/7～11/13)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)			
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津				
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0				
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0				
咽頭結膜熱	0.27	1.29	0	0	0	0	0	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.33	0.14	0.50	1.50	0.20	0	0	0				
感染性胃腸炎	8.03	17.14	18.67	3.00	1.00	1.25	0.20	5.00				
水痘	0.73	0.86	1.17	0.75	0.40	0.25	1.00	0				
手足口病	0.15	0.29	0.17	0.25	0.20	0	0	0				
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0				
突発性発しん	0.67	0.86	0.83	0	0.80	1.00	0.20	1.00				
百日咳	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0				
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0				
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0				
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.61	1.71	0.33	0	1.00	0	0	0.50				
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0				

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

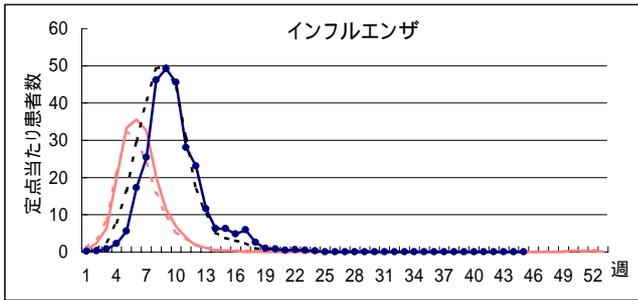
保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。A群溶レン菌咽頭炎は水口で、流行性耳下腺炎は大津で先週よりかなり増加しており、水痘は大津、草津および長浜で増加しています。百日咳は大津から連続して報告されていましたが、今週は彦根から報告されています。また、水痘は冬季に増加する傾向があるため今後の発生動向に注意する必要があります。

感染症のミニ知識 ~水痘~

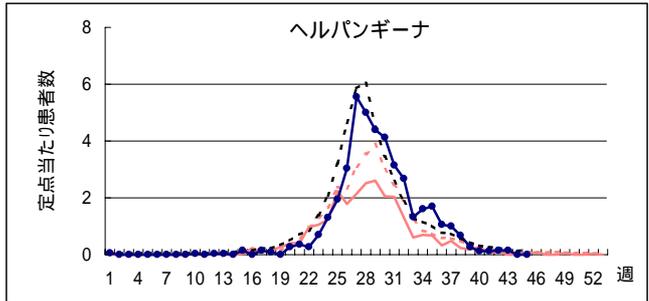
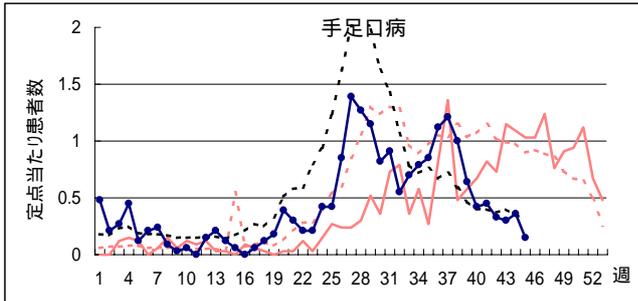
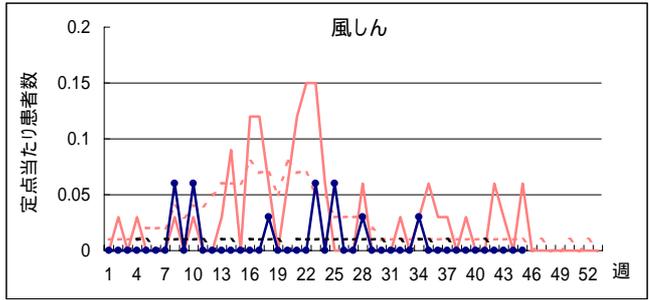
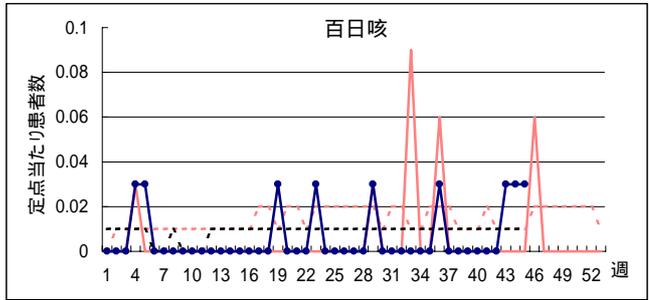
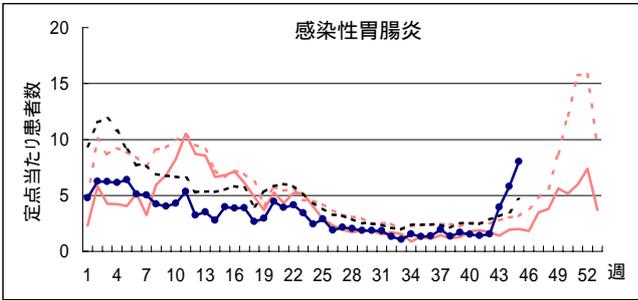
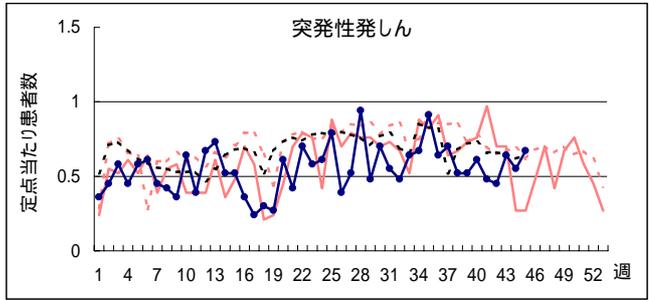
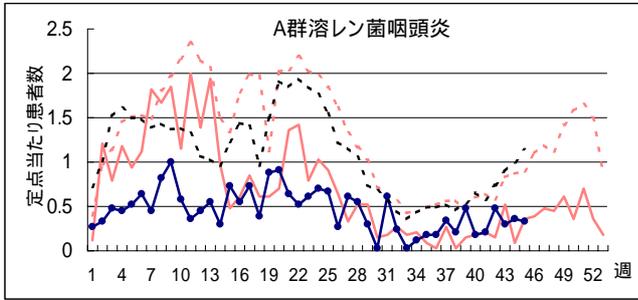
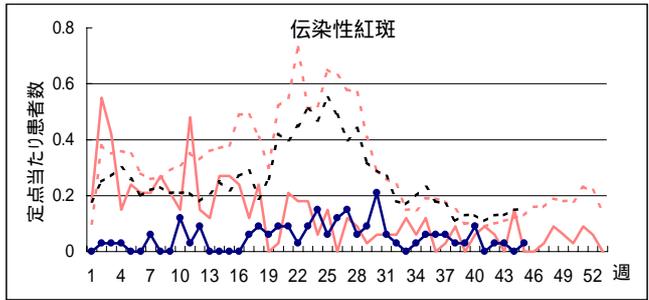
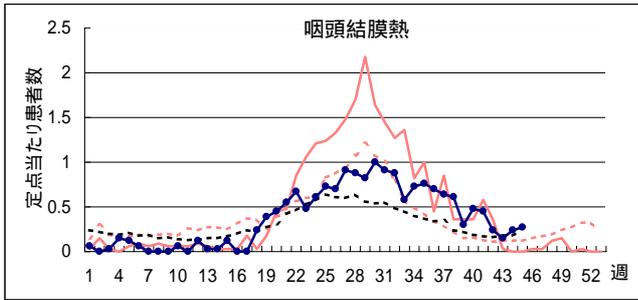
水痘帯状疱疹ウイルスに感染することにより起こる疾患で、罹患年齢は1～5歳に多くほとんどは9歳以下となっています。流行時期は感染症発生動向調査によると、12～7月に多くなり8～11月には減少しています。また、予防には水痘ワクチンの接種(任意接種)が推奨されています。

- ・感染様式: 直接接触等によるヒト-ヒト感染
- ・潜伏期: 10～20日(通常14～16日)
- ・臨床症状: 軽度の発熱、全身倦怠感、発疹(全身性で掻痒感を伴う)
- ・治療: 外用薬の使用
- ・予防: 感染源(患者、水疱内容物、気道分泌物等)との接触を避ける、水痘ワクチンの接種
- ・合併症: 15歳以上および1歳以下でやや高くなります(健康な小児にはあまりみられません)。症状としては、皮膚の二次性細菌感染、脱水、肺炎、中枢神経合併症(無菌性髄膜炎、脳炎など種々)などがあります。
- ・学校保健法における取り扱い: すべての発疹が痂皮化するまでは出席停止となっています(病状により、伝染のおそれがない場合は除きます)。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第45週、H17.1.3～H17.11.13)



H16
 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17
 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第45週、H17.1.3～H17.11.13)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 - - - - - 〕

